東洋學書考抄補遺

石濱純太郎

一　滿洲文選

滿洲文選に二本ある事を述べたのであつたが、石田杜村先生から東洋文庫に第一本に正誤表のある本の有る事を敎へられた。そこで「モリソン文庫目錄」(Catalogue of the Asiatic Library of Dr. G. E. Morrison, now a part of the Oriental Library Tokyo, Japan. Part Second, Books in other languages than English. Tokyo, 1924. p. 139b.) を見ると出てゐる。さうして pp. xi, 273 et errata. と明かに記してある。コルヂエ支那學書錄では丁數が『拾貳、二七三』となつてゐて一頁の差があるが、序文は拾壹頁で終り、裏が目錄で丁數の錄してない頁であるから、この異同が生じたものらしいさうすると第一本から正誤表があつたものとなるが、コルヂエ著錄の無正誤表本が尙ほ氣に懸るのである。余も亦有表本を後に見るを得たが、無表本を見たい。

二　蒙文馬太傳と約翰傳

舊譯福音書は少くとも馬太傳と約翰傳との二つが最初に出たものらしい。「デベル・レミュザ遺書目錄」(Catalogue des livres, imprimés et manuscrits, composant la bibliothèque de feu M. J.-P. Abel-Rémusat. Paris, 1833. p. 4.) を見ると次の樣に出てゐる。

33. Évangiles de S. Mathieu et de S. Jean, et les Actes des Apôtres, trad. en langue alet ou Kalmuke, par M. Schmidt. In-fol. long, bas.

34 Evangiles de S. Mathieu et de S. Jean, et les Actes des Apôtres, trad. en mongol, per M. Schmidt. In-fol. long, bas.

三三號はカルマク譯で三四號は蒙古文語譯であつて、兩方共に三種で馬可・路加兩傳は缺いでゐる。體裁も兩方同じらしい。シュミットは一八一五年に馬太傳のカルマク譯本を出版してゐるが、今度は又別の體裁にしたものらしい。ベビンゲルの「シュミット傳」(Franz Babinger: Isaak Jakob Schmidt, 1779-1847. Ein Beitrag zur Geschichte der Tibetforschung. Festschrift für Friedrich Hirth zum seinem 75. Geburtstag, Berlin, 1920. S. 12.) によると、一八二〇年にカルマク約翰傳を、一八二二年にカルマク使徒行傳を露都で出したとあり、その馬太傳の事も、又文語譯の事も出てゐない。然しこれを以て見ると、一八二〇年前後にシュミットが蒙古文語とカルマク語の譯本を各々三種だけ出したと見ていゝ樣で、一つ宛出たものなる事も分る。

三　ウイグル言語文字考

余は本考は三種あつてその別刷本が二種ある事を述べたのであつたが、石田杜村先生は果して然らば「クラプロオト遺書目錄」の一八二〇年巴里別行本は一八二二年巴里刊「伯林文庫目錄」に附する前に別行してゐた事となるが差支なきかと質されたのであつた。誠に當然なる疑問であつて、之に及ばなかつたのは余の粗漏であつた。余は僅かに「東洋寶藏」誌本と「伯林目錄」とを目覩したのみで、二種の別刷本を親しく撫摩するを得なかつたから、かゝる粗笨を暴露したのであつた。

余は主としてクラプロオト自身の記述に依據して論證したのであつた。前考に漏れたるもので、彼の「亞細亞雜考」第二卷 (Méinoires relatifs à l'Asie. Tome Second. Paris, 1826) に收められたるシュミット氏撰「中亞文化史考批判」(Observations critiques sur les recherches relatives à l'histoire politique et religieuse de l'intérieure de l'Asie, publiées par M. J.-J.

Schmidt, à St.-Pétersbourg.）の註にもある。同書三一一頁の「余の新しきウイグル考」に注して「これ余の伯林文庫目錄、巴里一八二二年刊に附錄として出でたり、別行本を作れり」と書いてゐる。これで見れば余の前考に述べたる所はクラプロオトに徵する限り誤りはない筈である。

所で驚いた事には彼自身の論文中にも一八二〇年として之を引用してゐたのである。例へば亞細亞雜考第二卷三五〇頁及び三五二頁に於て共に「余の新ウイグル考」に一八二〇年と附記してゐる。尤も同書三二〇頁注（一）には「余の新ウイグル考、巴里一八二三年刊」と出てゐるのは誤植に違ひない。又「チムコフスキ蒙古支那旅行記」の注（Travels of the Russian Mission through Mongolia to China, and residence in Peking, in the years 1820-1821. By George Timkowski. With corrections and notes by Julius von Klaproth. Vol. 1. London, 1827, p. 378）には「余の目錄に附する新考」として巴里一八二五年とあるのも誤植に違ひない。是れは二三年も二五年も何等關係がないから彼の筆に出でゝも誤記か誤植である。然し二〇年は彼の遺書目錄にも出るのだから誤植と簡單に抹殺しきれない。況んや他の人々の引用にもさう出てくるからである。

アベル・レミュザ遺書目錄五五頁五二一號はこの別行本だが二〇年と明記してある。ベンフェイの「獨逸言語學史」（Theodor Benfey: Geschichte der Sprachwissenschaft und orientalischen Philologie in Deutschland seit dem Anfange des 19. Jahrhunderts mit einem Rückblick auf die früheren Zeiten. Geschichte der Wissenschaften in Deutschland. Neuere Zeit. Achter Band. München, 1869. S. 748.）では「一八一一年、一八一二年及び一八二〇年にクラプロオトはウイグル人の語言と文字とを論ぜり」と三本あるを述べてゐる。これは東洋寶藏本、カウカズス旅行記本、伯林目錄本の事を指してゐるのだが、第三本は一八二〇年となつてゐる。バビンゲルの「シュミット傳」（Franz Babinger: Isaak Jakob Schmidt, 1779-1847. Ein

Beitrag zur Geschichte der Tibetforschung. Festschrift für Friedrich Hirth zu seinem 75. Geburtstag 16. April 1920. Berlin, 1920. S. 13-4.）にも引いて同じい。又ツァフェロウル・アフメット氏の「ウイグル語彙」(Dr. Caferoğlu Ahmet: Uygur Sözlügü. Istanbul, 1934.）では序文中にも、引用書目中にも一八二〇年巴里刊と擧げてゐるのだ。又且つ「モリソン文庫目錄」第二部三一三頁にも二部を擧げ、一は別行本であり、一は伯林目錄本であり、共に一八二〇年とある。伯林目錄本は其下の伯林目錄と見合せて一八二二年とせねばならない樣である。かく我が東洋文庫に一八二〇年別行本が存在するとせば、問題は簡單に片付くわけであるが、何故別刷本が原本に先立つか、クラプロオトの筆から見ても分らない。

所でアベル・レミュザに「伯林文庫目錄」の新刊批評 (Sur les livres chinois de la bibliothèque royale de Berlin. Mélanges Asiatiques, ou choix de morceaux de critique et de mémoires relatifs aux religions, aux sciences, aux coutumes, à l'histoire et a la géographie des nations orientales; par M. Abel-Rémusat. Tome Second. Paris, 1826. p. 352—371.）があつた。その三六四頁に於て「クラプロオト氏は此目錄の後に附錄としてウイグル人の文字及び言語に關する論考を附載せり。此論考は最初は東洋寶藏誌に、次いでカウカズ及びジョルジア旅行記の獨逸版に印刷されたり、著者はその論考がこの旅行記の問題と直接の關係なきを以て之を別ち、巴里に於て刊行せられんとせし此旅行記の佛譯本には加へずして訂正增補を施して之を本書に出せるなり。」と述べ、注に於て「このウイグル考は拔刷せられ題して曰く、

Abhandlung über die Sprache und Schrift der Uiguren. Nebst einem Woerterverzeichnisse und anderen Uigurischen Sprachproben, aus dem Kaiserlichen Uebersetzungshofe, zu Peking. Paris, 1820.

この別刷は全書と共に出でたり。」と明記してゐる。この

詳題はモリソン目錄に著錄せられる所であり、レミュザ遺書目錄には佛譯で出てゐる。尤もモリソン目錄にはペキン以下を Herausgegeben von Julius Klaproth. Paris: In der königlichen Druckerey. 1820. としてゐるが、それが完全なる詳題であらう。レミュザは別刷本が目錄本と同時に出でたる事を特に記してゐるのは、題名と云ひ刊行紀年と云ひ多少の相異のあるを以て特に注意したものに違ひない。是を以て一八二〇年別刷本は一八二二年目錄本の別刷であり、且つ同時に出でたるものなるは明かになつた。何故に同時に出でたるものに特に一八二〇年の刊記を附したるやは、クラプロオト自身に質問して見るより外はないが、恐らく既に完成してゐた事を誇示したものなんだらう。さうするとクラプロオト目錄中の著作年表に之を刊記によつて一八二〇年にのみ懸けてゐるのは再考を要する。

以上の考證によつて、本考は東洋寶藏本、カウカズス旅行記本、伯林目錄本の三種あり、一八一二年別刷本はカウカズス旅行記の拔刷本、一八二〇年別刷本は伯林目錄の拔刷本なる事、又これにより刊記によつてその何本なるを知るを得る事と思ふ。これを以て石田先生への御答へとする。

前考正誤表

八五頁下段一行「Ministra」sをcに誤る。

八八頁上段八行「Sangpitirburg」尾にeを衍す。

九〇頁下段四行「も未だ見ざる」も未を倒す。